

令和元年度兵庫県立但馬やまびこの郷研修会

不登校に関する研修会：

不登校・長期欠席児童生徒の社会的自立
～不登校支援に向けた多職種間の協働～



福岡教育大学 教職大学院 西山 久子
hisakon@fukuoka-edu.ac.jp

本日の流れ

- はじめに
- 子どもたちと学校の現状
- 「チーム学校」と多職種連携
- 早期介入ーチーム援助会議
- 児童生徒の支援をシステム化する
- 社会的自立に向けた支援
- ミドルリーダーの役割

子どもの抱える状況

◆対人関係力向上の必要性

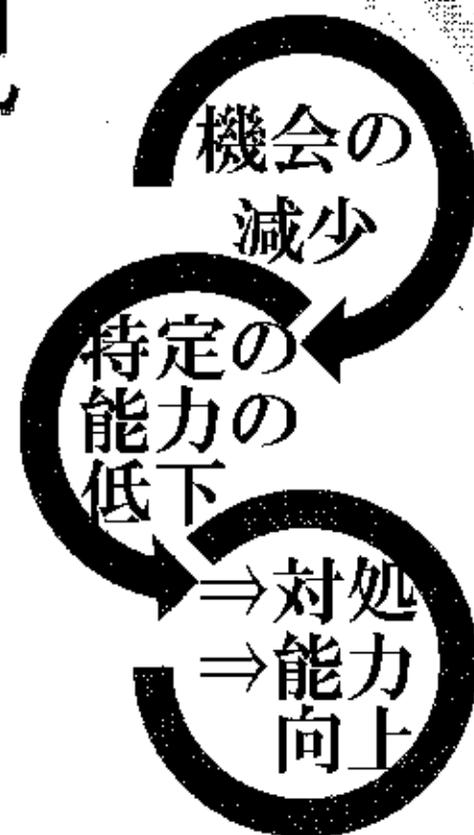
- 社会性を高める場の喪失

◆葛藤への耐性の脆弱性

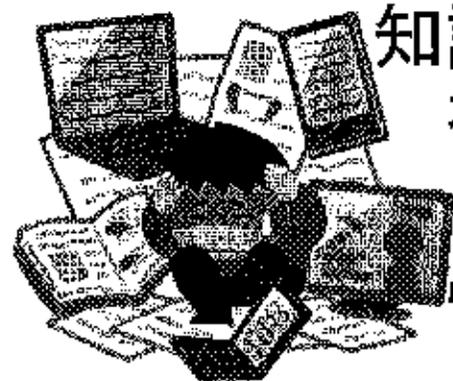
◆社会適応力の低下

- ・多様化する家族構成
- ・両極化する家庭環境

- ピア・サポート， Social Skill Training， Social Emotional Learning(社会性と情動の学習)など心理教育的プログラムの導入

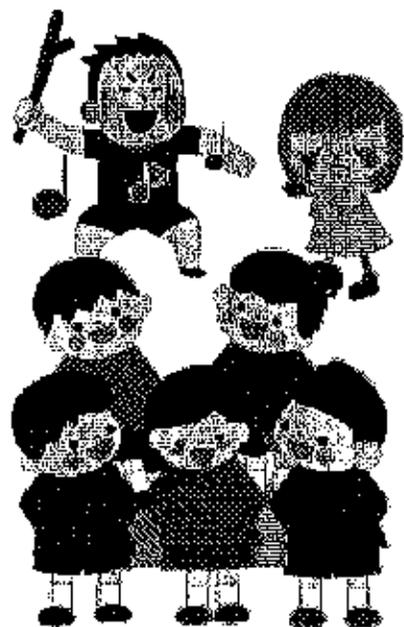


学校生活充実の阻害に関わる課題



知識基盤
社会の
進行
情報化

ベテラン教
員の退職
(年齢構成
の激変)



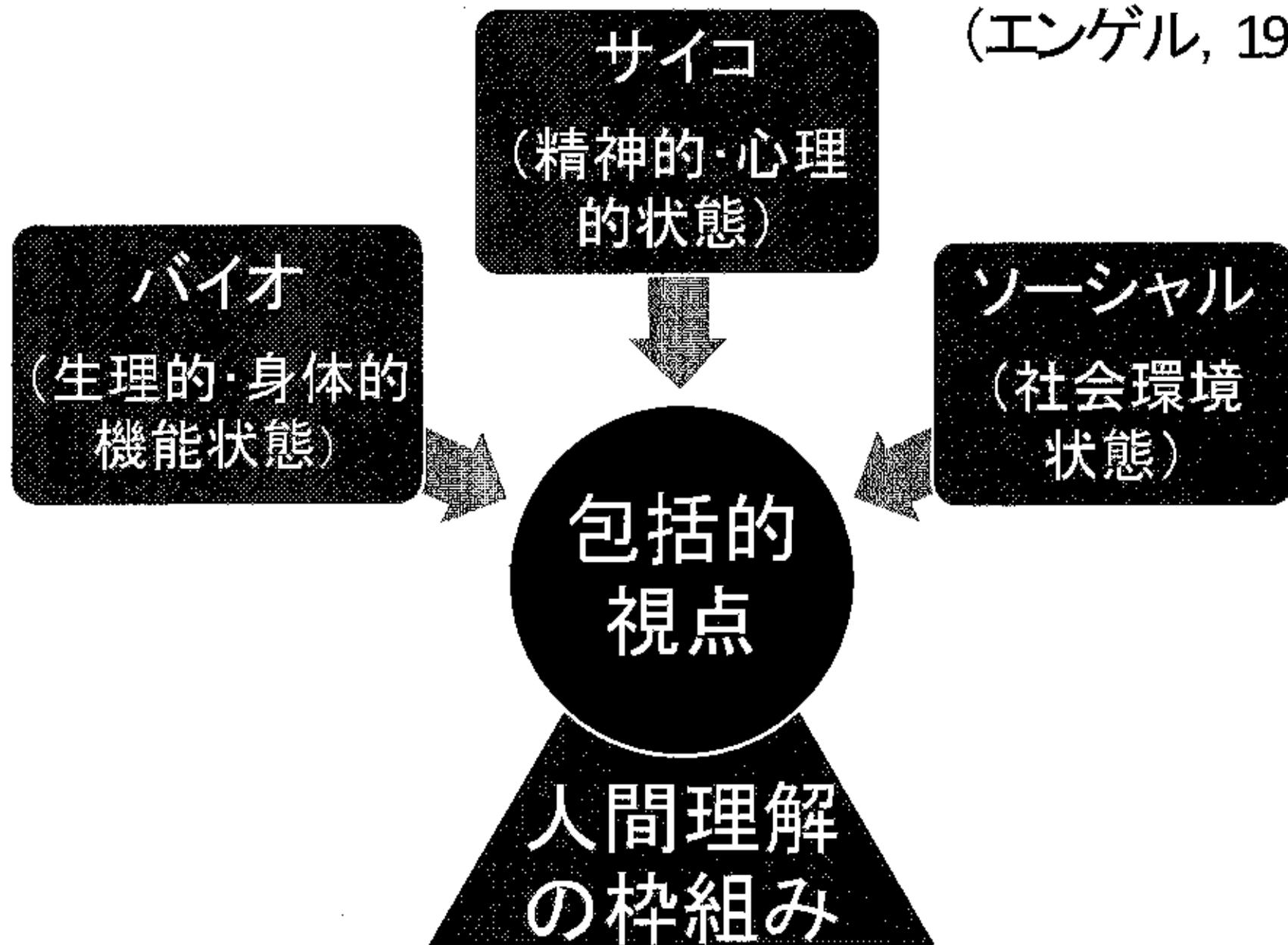
子どもの
教育的な
ニーズや
問題行動
の多様さ



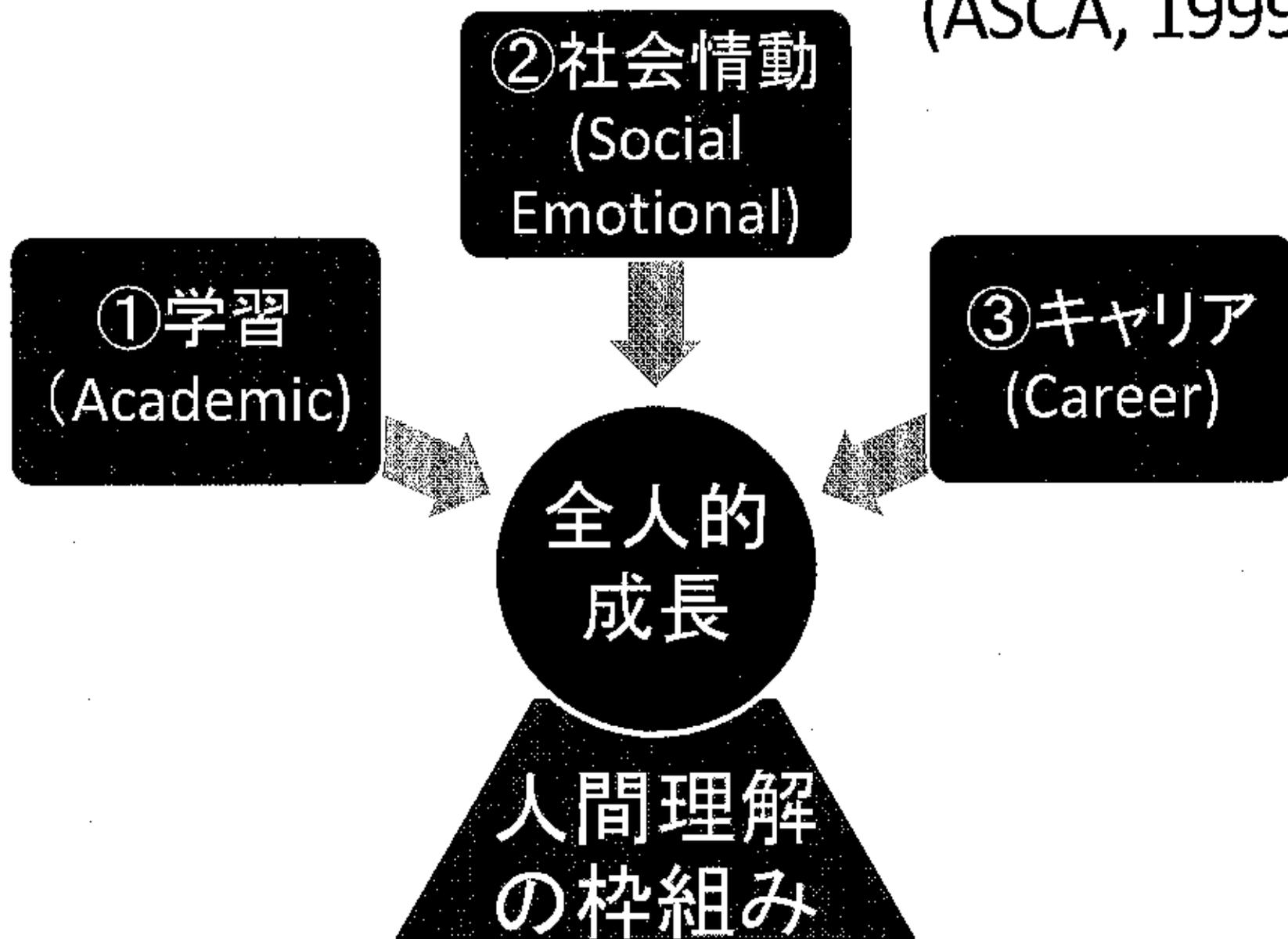
少子化等
による
子どもの
社会性の
未熟さ



子ども理解：バイオ・サイコ・ソーシャルモデル (エンゲル, 1977)

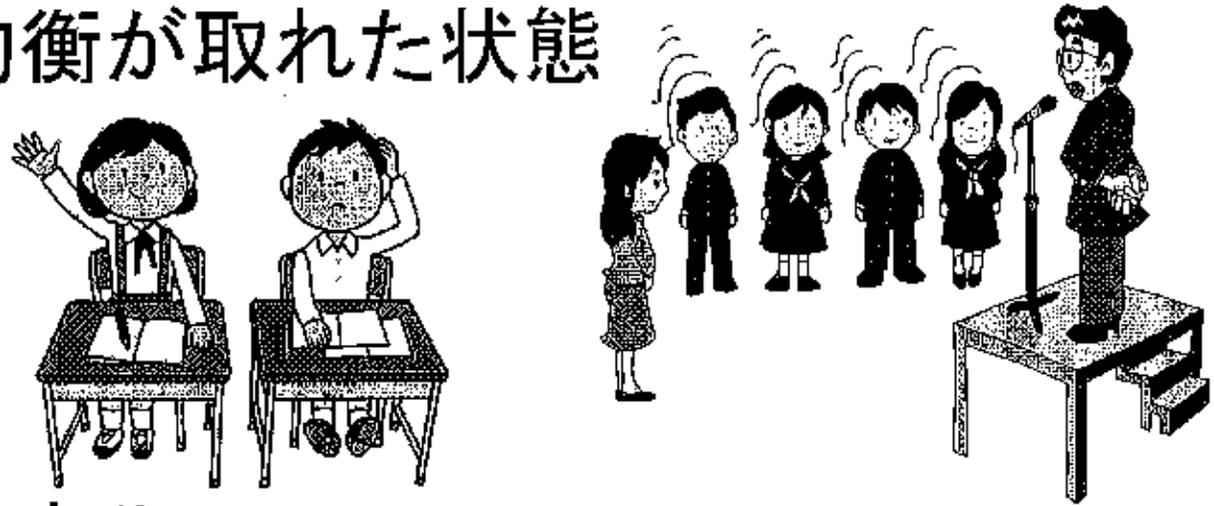


子ども理解：スクール・カウンセリングモデル (ASCA, 1999改)



うまくいっている・適応できている

- 個と環境の均衡が取れた状態



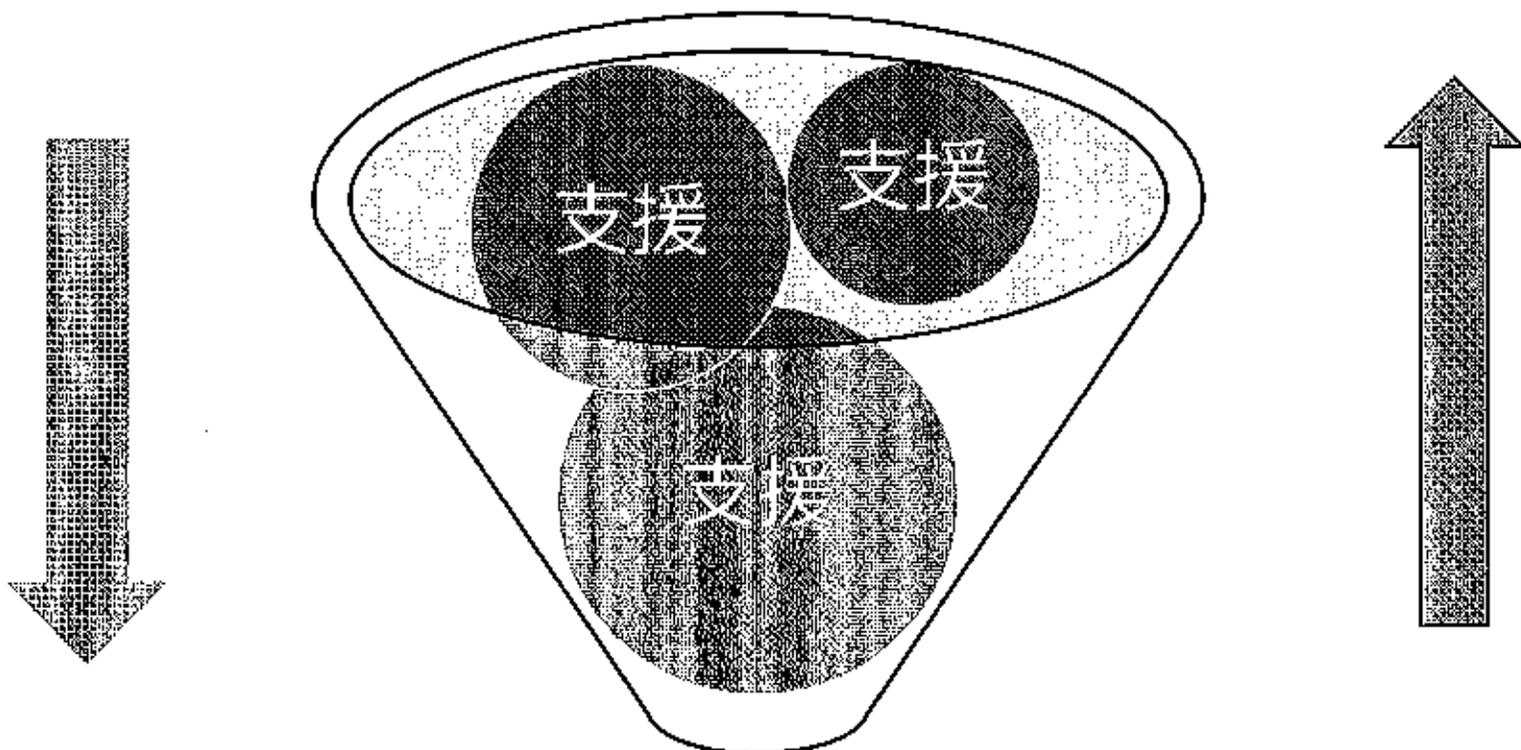
- 時間帯による変化
- 当該の児童生徒の置かれた状況
- 環境としての校内の支援者・カウンセラー・

支援の均衡

支援者はどこまで対応すべきか

支援ニーズ低・・・支援内容少

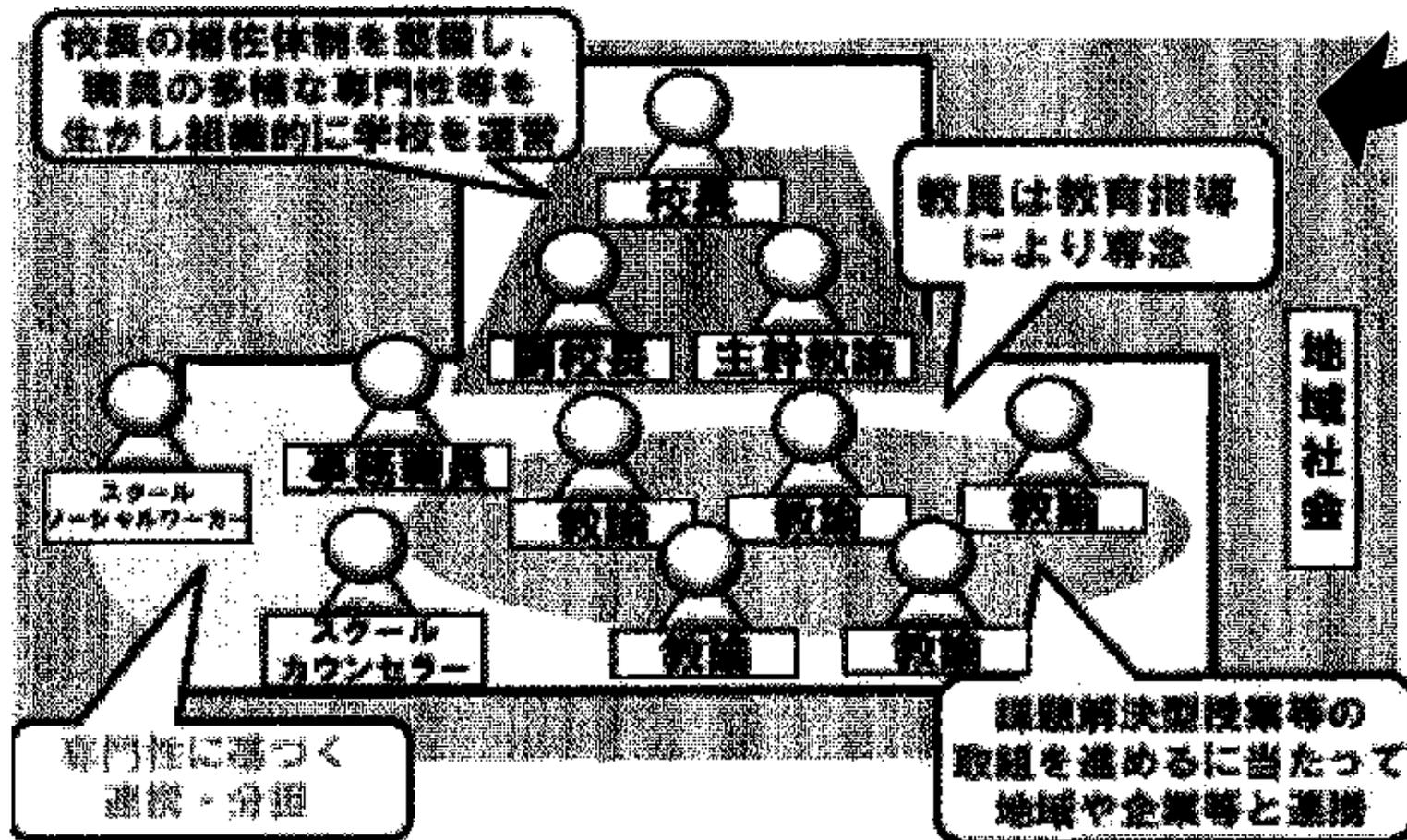
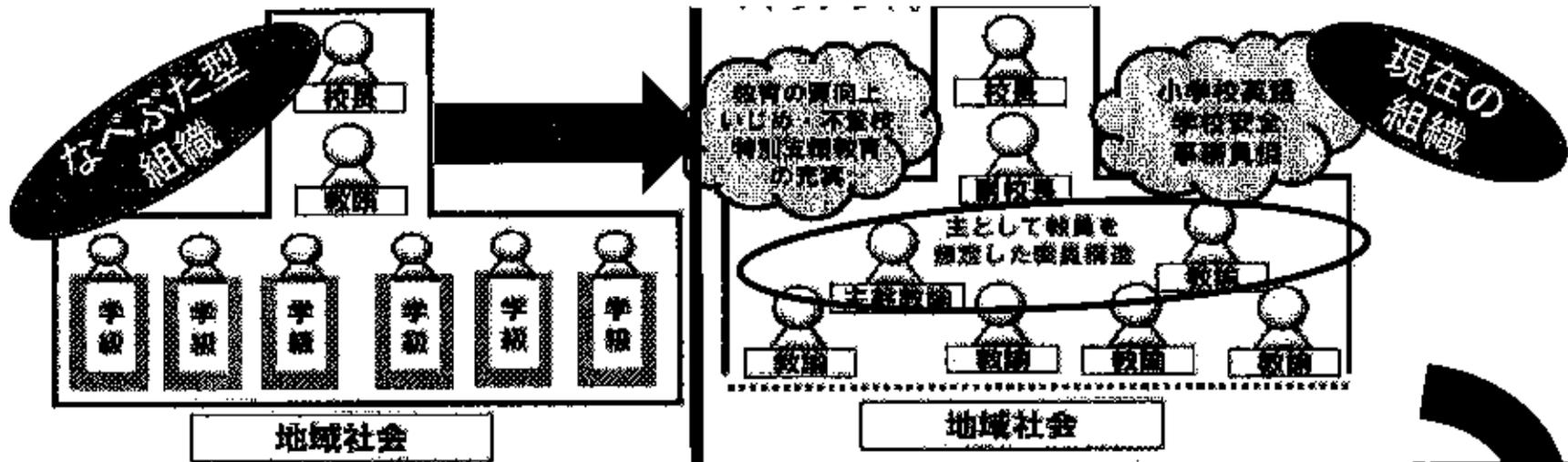
自分でできる度高



支援ニーズ高・・・支援内容多

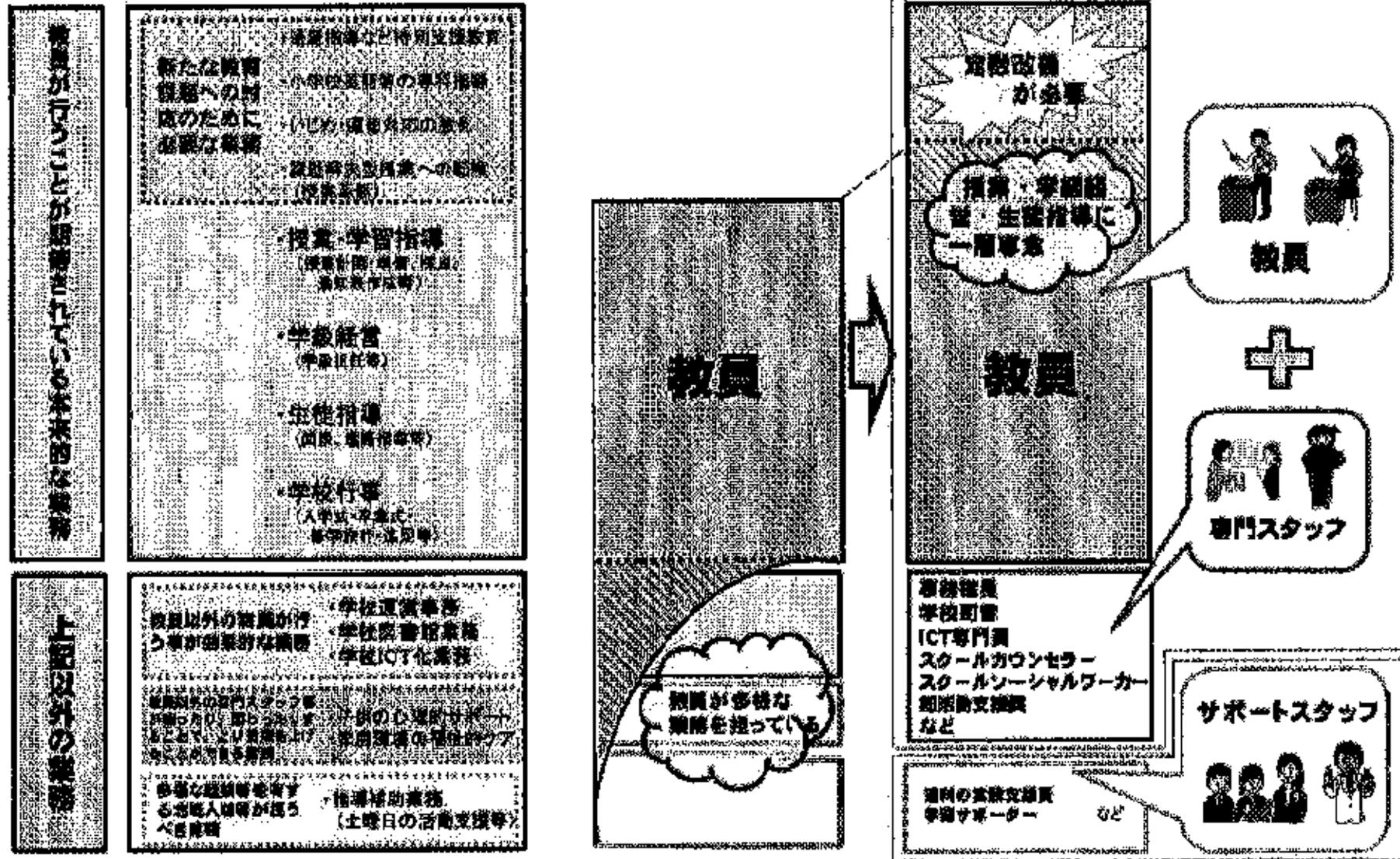
自分でできる度合低

チーム学校までの学校組織のプロセス



文部科学省の示す「チーム学校」のイメージ(文部科学省, 2015)

「チーム学校」の実現による学校の教職員等の役割分担の転換について (イメージ)



学校現場の業務

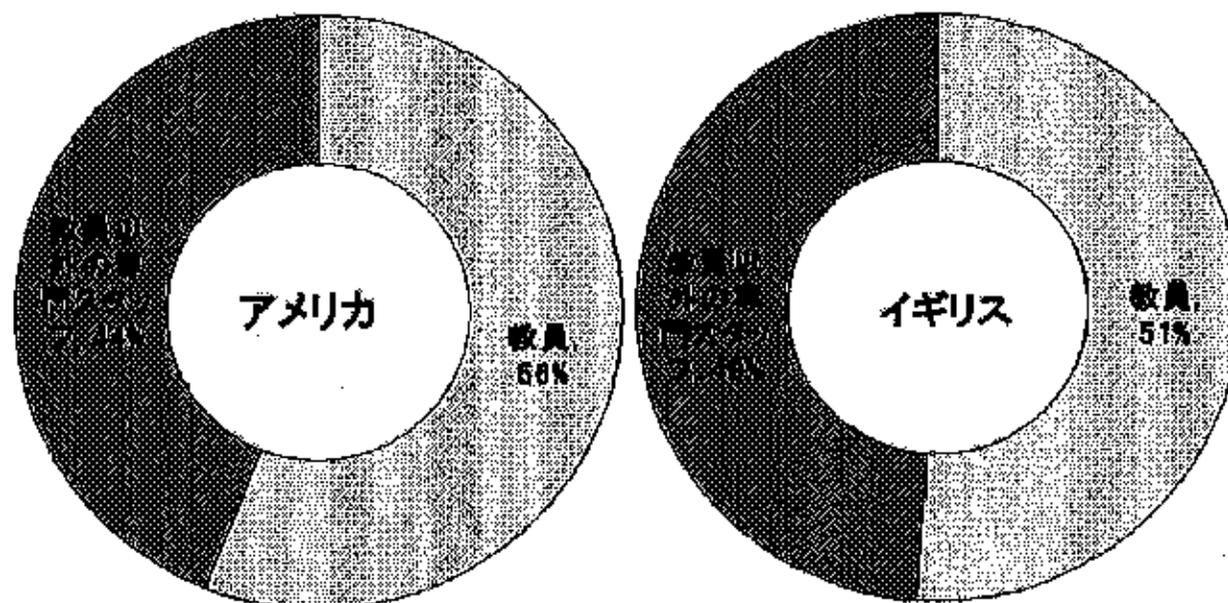
現在の役割分担

「チームとしての学校」における役割分担

チーム学校の背景となる状況(文部科学省, 2015)

専門スタッフの割合の国際比較

○初等中等教育学校の教職員総数に占める教員以外の専門スタッフの割合



出典:文部科学省「学校基本統計報告書」(平成26年度)、「Digest of Education Statistics 2012」, "School Workforce in England November 2013"

※1 日本は小・中学校に関するデータ

※2 日本における専門スタッフとは、養護教諭、養護助教諭、栄養教諭、専務職員、学校栄養職員、学校図書館事務員、養護職員、学校給食調理従事員、用務員、警備員等を指す

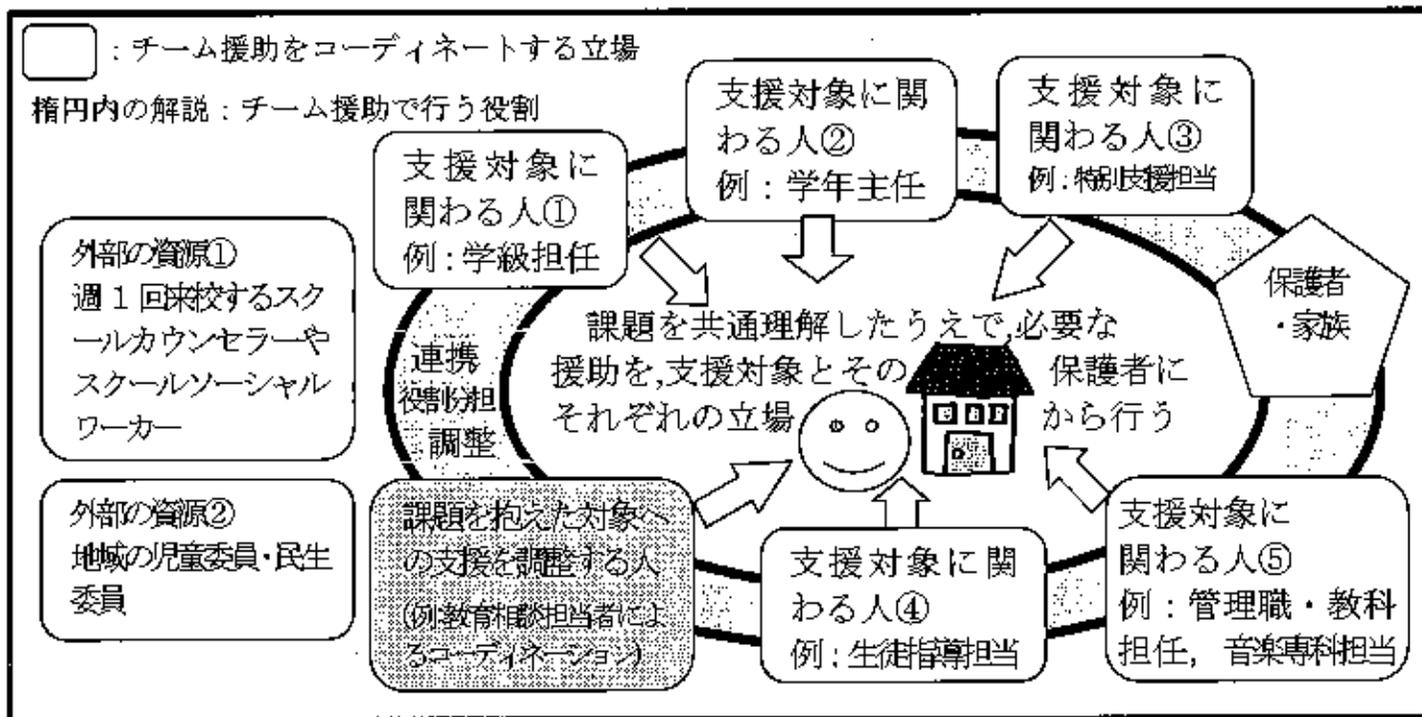
※3 アメリカにおける専門スタッフとは、ソーシャルワーカー、医療言語聴覚士、就職支援員等を指す

※4 イギリスにおける専門スタッフとは、司書、メンター、医療及び看護職員等を指す

パートナーシップ

支援の輪を豊かに

旧来のスタイル



「教育相談体制の充実」(平成29年2月通知)

① 教育相談体制の今後の方向性

－ 従来は事後の個別事案への対応・支援に重点

⇒未然防止・早期発見・早期対応。問題発生から改善・回復再発防止までの一貫した支援体制。
連携。コーディネーター役の教職員の配置

② SC・SSWの役割の明確化

③ 教育相談体制の充実のための連携の在り方

「チーム学校」での教育相談(文科省, 2017)

SC

- 常勤SCの段階的増員
⇒ SCはすべての必要な学校・教育委員会・教育支援センターへ

SSW

- 常勤SSWの段階的増員
⇒ SSWはすべての中学校区及び教育委員会へ

専門的力量活用への配慮事項

- 児童生徒及び保護者との信頼関係構築
⇒ 全児童生徒への面談や保護者向け講習会の開催等
- 養護教諭・教育相談コーディネーター, SC・SSWなどがもつ児童生徒に係る情報の活用
⇒ 校内の会議・日常的機会を設定した情報交換の促進

SC・SSWの役割(文部科学省, 2017)

【不登校・いじめ等の未然防止, 早期発見及び支援・対応】

SC・・・心理的視点

- 児童生徒及び保護者からの相談への対応
 - 個別カウンセリング・授業観察でアセスメント
 - 支援方法の立案
 - 教職員・組織へのコンサルテーション
- 学級・学校集団への援助
 - (補足) 学校コンサルテーション
 - (補足) 心理教育

SSW・・・福祉的視点

- 地方自治体のアセスメントと教育委員会への働きかけ
 - 児童生徒や保護者との面談・アセスメント
 - 支援計画の立案
- 学校アセスメントと学校への働きかけ
- 事案に対する校内連携と支援チーム体制構築

(補足)・・・筆者による補足

チーム学校の 多職種協働

チーム学校

いじめ・不登校などの
学校が抱える課題

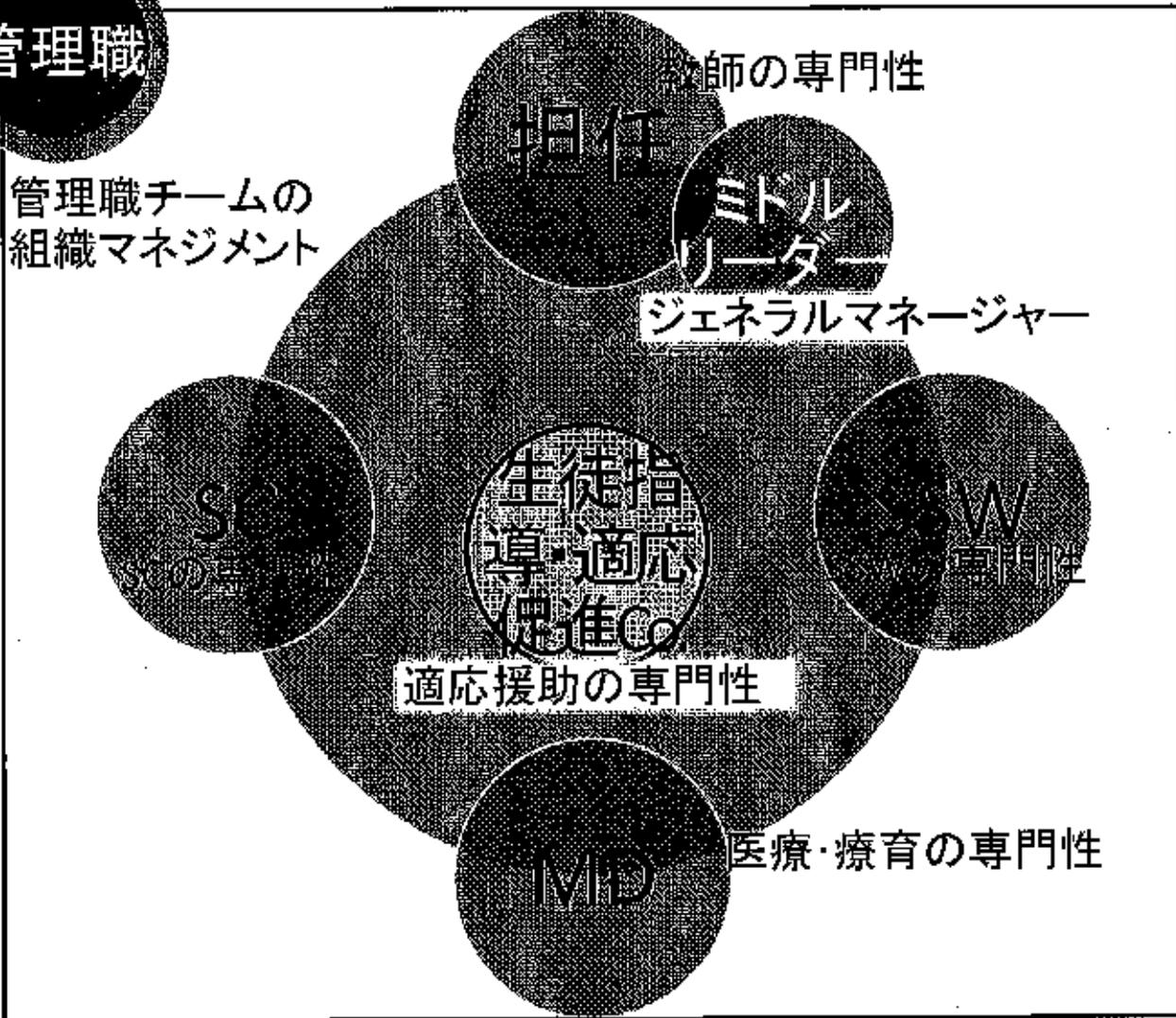
多様な専門スタッフの
配置の必要性

適切な問題解決に向
かう学校の組織文化

校長のマネジメント
機能の強化

管理職

管理職チームの
組織マネジメント



教師の専門性

担任

モデル
リーダー

ジェネラルマネージャー

SP
SPの専門性

生徒指導・
適応
推進

適応援助の専門性

SW
SW専門性

IMD

医療・療育の専門性

学校適応援助の一般性と専門性

豊かな人間性のもとに培われた確かな教育実践力の獲得

教育の
専門家

全教員が持つべき一般的な学校適応援助力
例) 傾聴, 1次的心理教育サービスに関する活動

学校適応援助の
専門家

教育相談担当者が持つべき専門的力
例) コーディネーション
コンサルテーション
システム構築
見立て

心理・医療
福祉等の
専門家の
サポート

深刻さのレベルによる3層構造での支援

相談室登校生支援
など個別の対応

三次支援 特別な子ども
(個別化された支援)

保健室の教室忌避
傾向の生徒を訪問

二次支援 一部の子ども
(校内で支援を共通理解)

受入れ状態を高め
る温かい風土づくり

一次支援 全ての子ども
(クラスをたがやす)

学校カウンセリングのシステム化

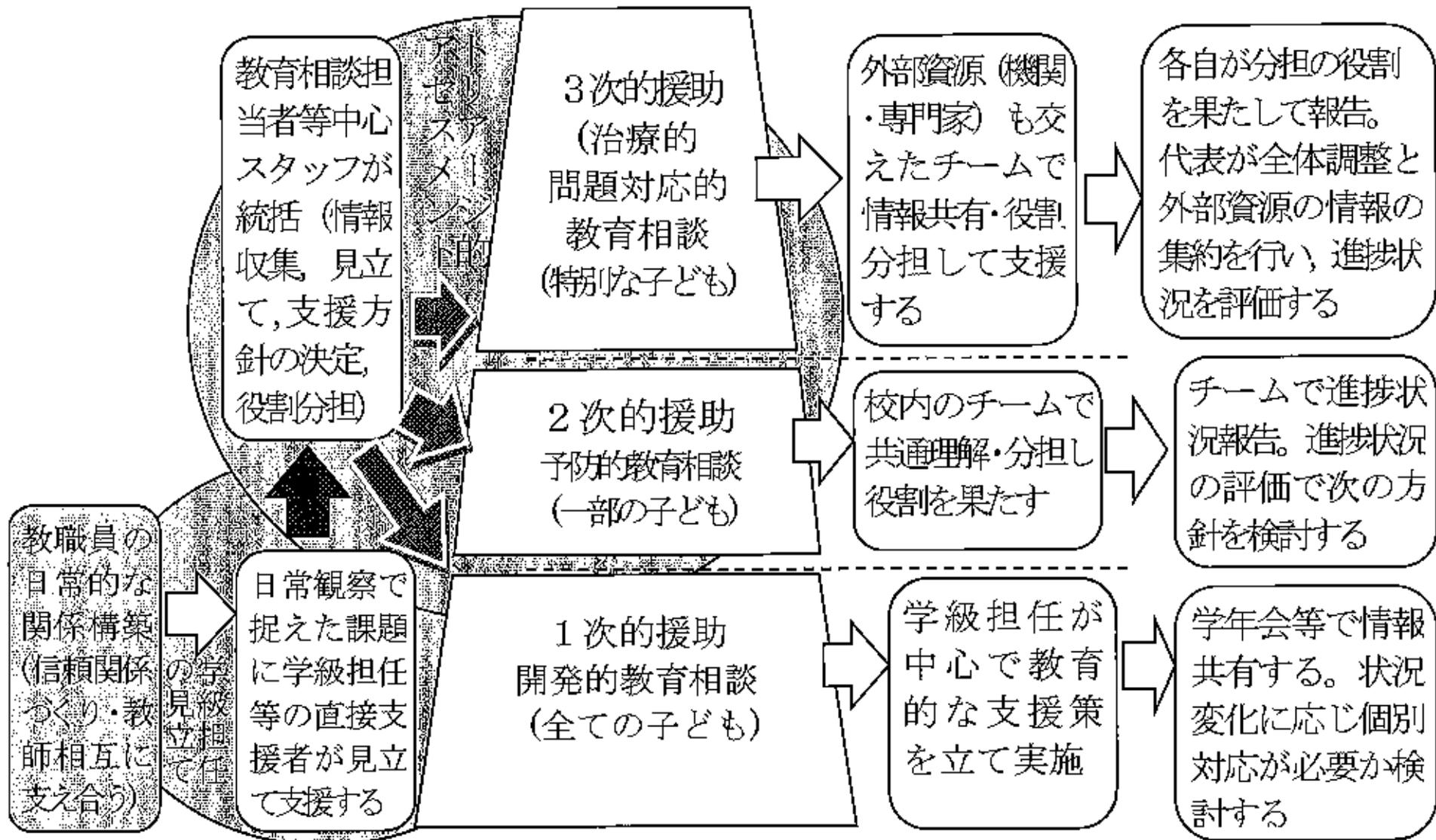


図1 教育相談活動階層的援助システム (西山,2010 を修正)

分析的視点で見た児童生徒の理解...

	学習面	心理社会面	進路面	健康面
何らかの枠組により網羅的に状況を検討すると解決の糸口が見える				
児童期	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な読み書き計算 ・日常生活で出会う概念の理解 ・具体的材料をもとに論理的思考ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・感情のコントロール・他者への共感 ・自己への肯定的態度 ・友人関係の構築・同年齢集団とともに行動 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きなこと・得意なこと・大切にしていることがいえる ・将来に向けた夢がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活への心身の適応 ・自分の体調の把握とそれに適応した行動
青年期	<ul style="list-style-type: none"> ・抽象的な思考や科学的論理の理解 ・社会の仕組の理解、問題点を把握・批判 ・内面の言語化 	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の状態の把握 ・親からの情緒的自立 ・親しい友人との親密・率直な話 	<ul style="list-style-type: none"> ・同輩との関係で自分の相対的位置づけができる ・個性の把握 ・社会の価値を受入れ自分の価値観と比較できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活を自分の体調に合わせて調整する ・周囲の人々の健康状態を理解し対処できる

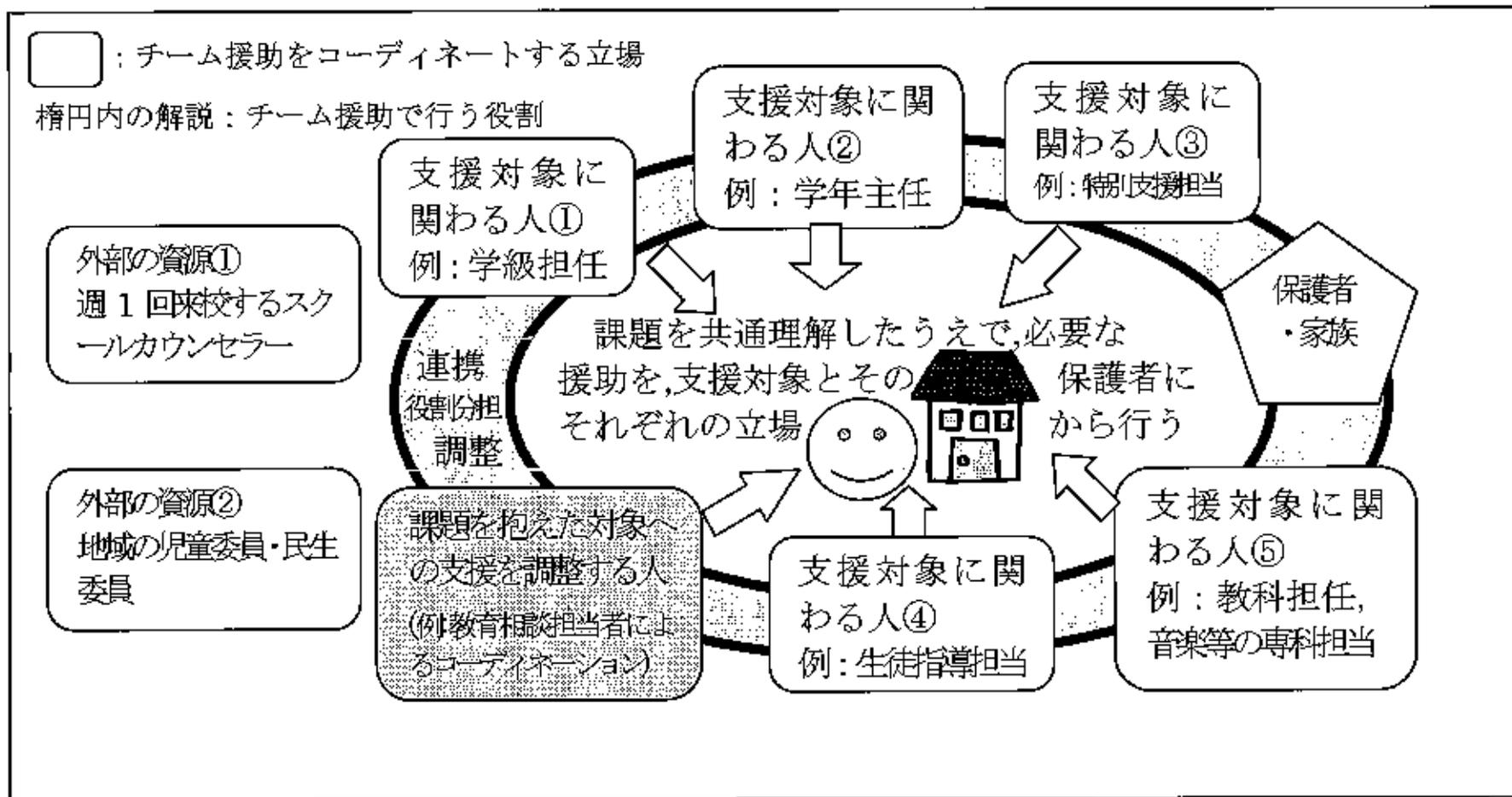
課題のある児童生徒の理解と対応策の検討

	学習面	心理社会面	進路面	健康面
いいところ	<p>(小3)九九はマスターしている</p> <p>(中1)書く字は整っている</p> <p>(高2)提出物は期限内に出せる</p>	<p>(小3)見通しがあると落ち着いている</p> <p>(中1)誰に対しても礼儀正しい</p> <p>(高2)話をする友達はいる</p>	<p>(小3)新幹線の駅名が全部言える</p> <p>(中1)職場体験で花屋を希望</p> <p>(高2)将来に向けた夢・希望がある</p>	<p>(小3)いやなことは自分で言える</p> <p>(中1)生活リズムは整っている</p> <p>(高2)欠席は全くない</p>
気になるところ	<p>(小3)記憶力が年齢より低い様子</p> <p>(中1)不完全な所を極度に気にする</p> <p>(高2)音に対して過度に敏感</p>	<p>(小3)気懸り事があるとパニックになる</p> <p>(中1)親の反応に特に敏感である</p> <p>(高2)相手の気持ちを理解できない</p>	<p>(小3)自分の身の管理が苦手</p> <p>(中1)自分の得意なことが言えない</p> <p>(高2)夢が実現しにくい</p>	<p>(小3)体力の調整ができず倒れる</p> <p>(中1)心の不調が体調に出る</p> <p>(高2)生活の自己調整ができない</p>
やってみたと	<p>(小3)取り出し学習</p> <p>(中1)花の管理の役目を持ってもらう</p> <p>(高2)次にすることを手帳に書かせた</p>	<p>(小3)各活動前に見通しを伝えた</p> <p>(中1)別室を利用</p> <p>(高2)アサーティブな友人と組ませた</p>	<p>(小3)新幹線の駅名が全部言える</p> <p>(中1)学級全体で良い所探しをした</p> <p>(高2)個別に相談</p>	<p>(小3)体調管理の物差しを作らせた</p> <p>(中1)不調の度合を数値で表現した</p> <p>(高2)予定表作成</p>

分析的視点による児童生徒の理解をもとにした支援策

	学習面	心理社会面	進路面	健康面
援助方針	目標と援助方針 ・家族の生活形態の変化、これまで身につけてしまった基本的な生活習慣を正す ・ ・	・友人との関係が良好になるよう、得意な領域を通じた援助を依頼する	・卒業後の進路の具体化を行う ・	・遅刻しても登校したら保健室に寄り健康観察を受ける ・
援助案	誰が行うか 国語担当&担任(英) 数学担当	担任	・進路具体化 担任 ・規範行動 ・	健康観察 健康管理・保健
	いつからいつまで行うか 自己PR:年度末まで 数学:2学期終了まで 国・英:年度末まで	年度末まで	進路:2学期終了までに一度方針を決定 規範:2学期末 長所探し:2学期末	観察:2学期終了 管理:年度末

みんなで支える・・・の具体

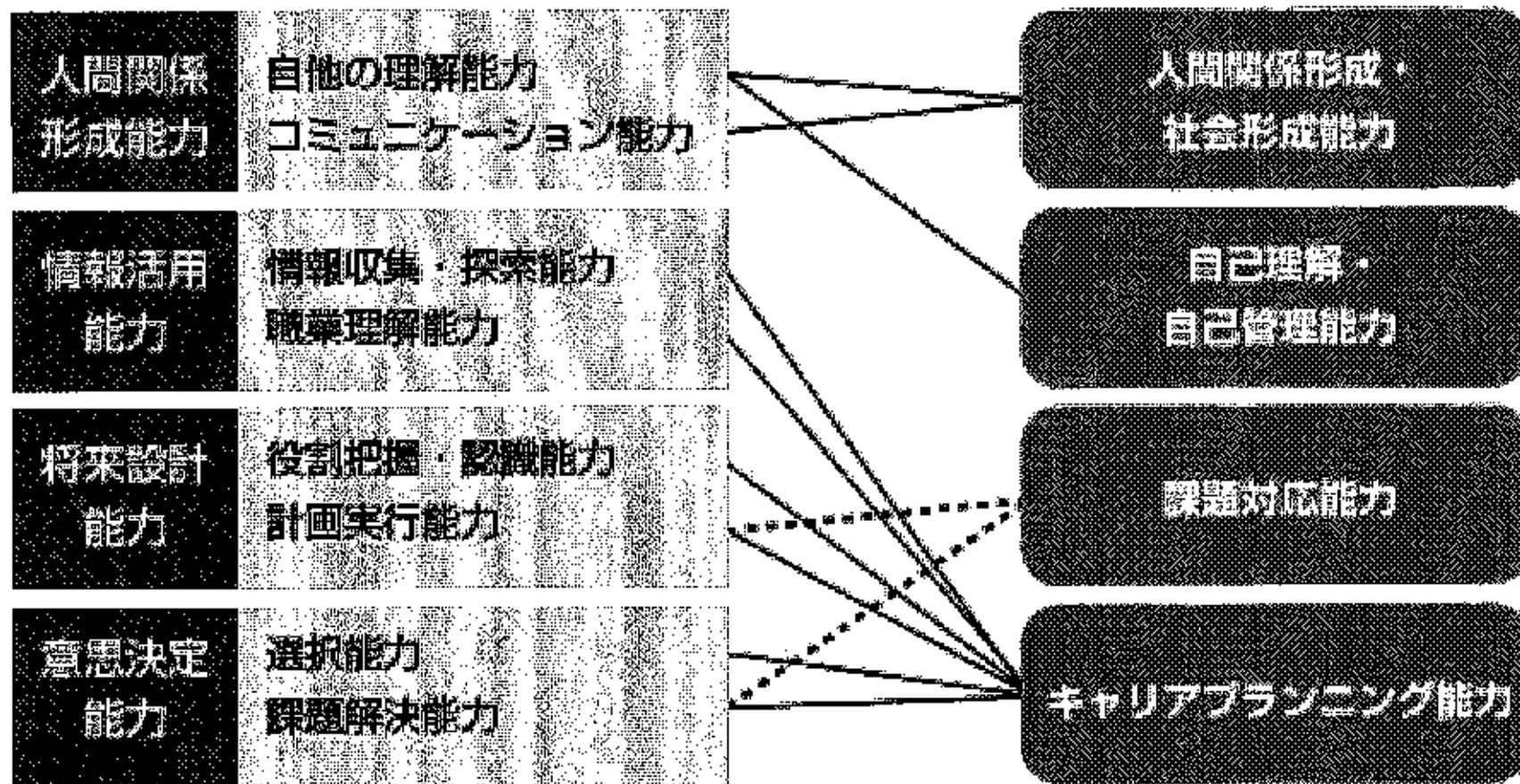


対処に迷う児童生徒の事案のチーム援助の例

キャリア教育の領域整理(文科省, 2011)

「キャリア発達にかかわる諸能力(例)」
(4領域8能力)

「基礎的・汎用的能力」



※図中の破線は両者の関係性が相対的に見て弱いことを示している。「計画実行能力」「課題解決能力」という「ラベル」からは「課題対応能力」と密接なつながりが理解されるが、能力の説明欄までを視野におさめた場合、「4領域8能力」では、「基礎的・汎用的能力」における「課題対応能力」に相当する能力について、必ずしも前面に出されてはいなかったことが分かる。



成長過程における課題

先送りと責任転嫁の限界

不登校

学業不振

高等学校

大学

中学校

より深く抽象的な思考

小学校

仲間との絆の重視

自分の将来像と現実

大人への批判精神

対人関係の深まり

保育所
幼稚園

対1の対人関係

客観的視点の向上

対人関係

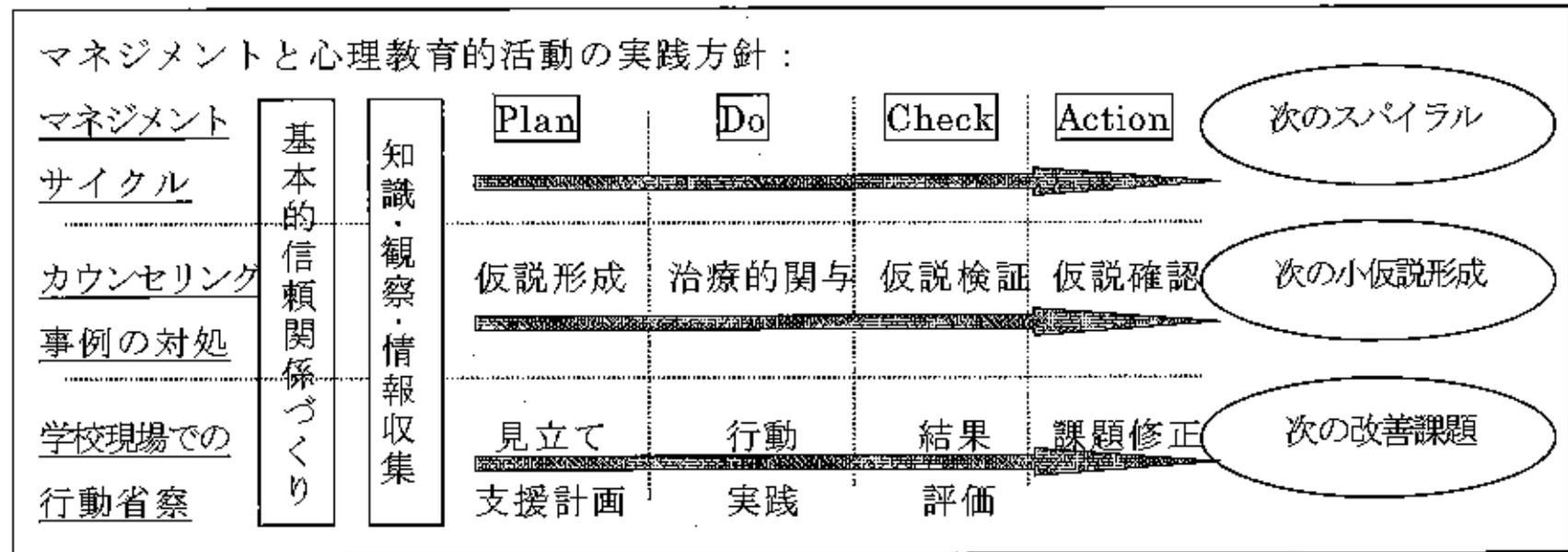
複数の友達と遊ぶ

他者に関心を持つ

教師との対立

援助を行う際の手順の原則...RVPDCA

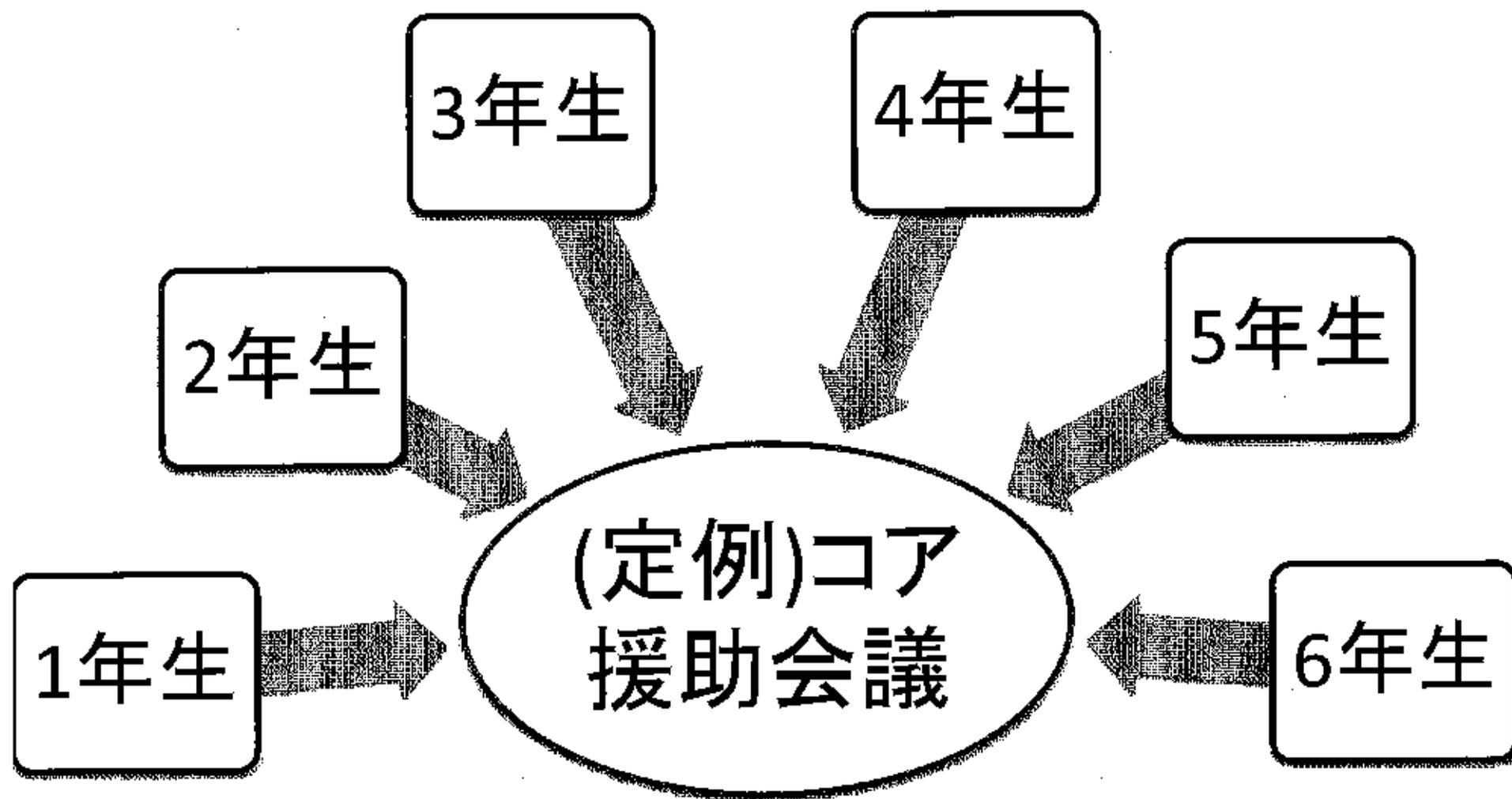
信頼関係づくり 情報収集 見立て 支援計画 実践 評価 課題修正



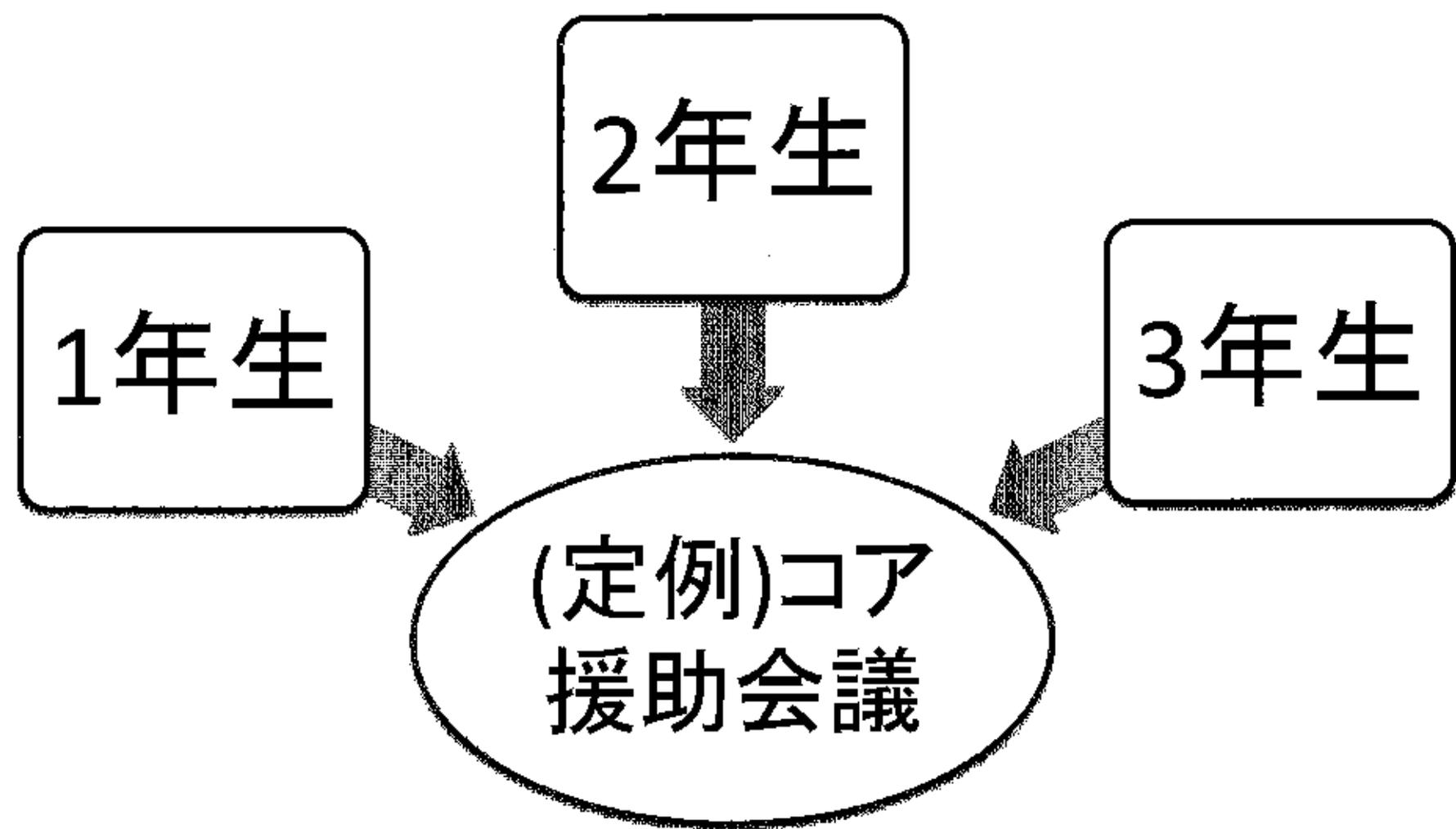
コンサルテーションの流れ（例）



定例のチーム援助会議： 校内の適応援助ニーズを「まとめる」



定例のチーム援助会議：
校内の適応援助ニーズを「まとめる」



対応する児童生徒を早期把握するために… チェックリストをもとにチームで支援する

- 個別の対応をする子どもをどう把握し、支援するか
 - 苦戦している子どもの把握
 - 援助の方針を検討 ⇒ 実践

ポイント:

- 校内で誰が推進するか
- 児童生徒全体に支援が網羅されているか

→ 子どもの抱える課題の重さによる把握

→ 子どもの課題の種類による把握

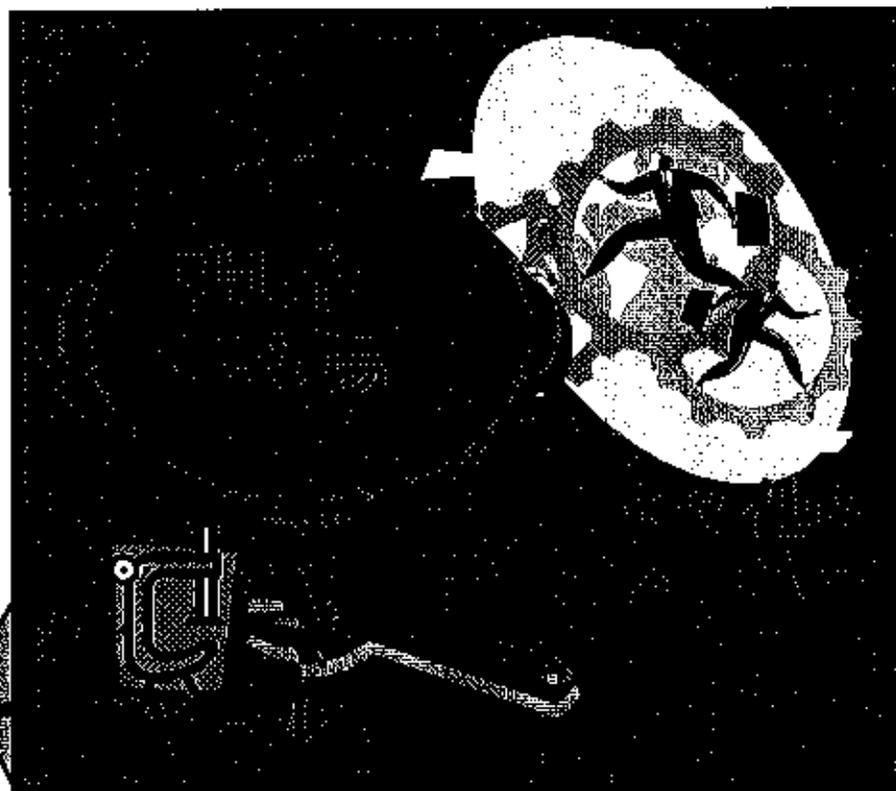
→ 子どもの学習スタイルによる把握

→ 子どものもつ援助資源による把握

教育相談システムを構築する...

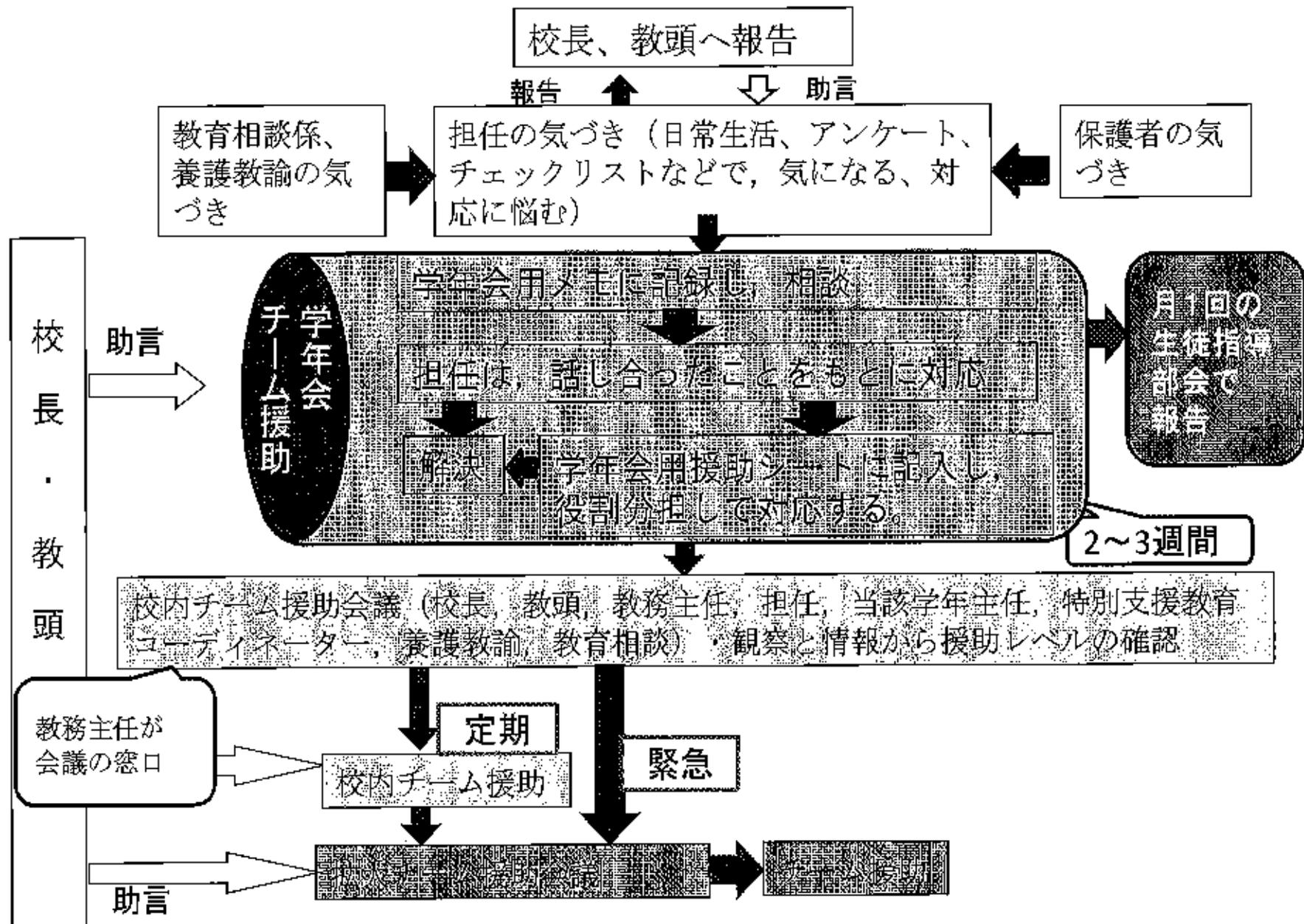


教育相談の牽引者
(教育相談コーディネーター・管理職)



(チェックリスト、
記入用シート等)

- ・養護教諭
- ・生徒指導
担当
- ・特別支援
教育Co.
- ・管理職



図B 学年会を核としたチーム援助の例(馬場・西山, 2012)

どんな家の子も学校生活に目標をもち、次の教育につなぐ



子供の将来のためのロードマップ
ローズランドスクール

そうです！ お子様は
大学に行くことができます！

The main body of the advertisement is a large grid of small, square images. Each square depicts a different scene of school life. The images show students in classrooms, participating in sports, working in groups, and in various school settings. The grid is organized into several columns and rows, with some larger images interspersed. The overall theme is a comprehensive view of the school's environment and the activities of its students.



子どもの学校適応から社会適応へ

- ◇Self Advocacyの力量を高める
- ◇Resourceに関する情報を集める
- ◇Support systemを自らの周りに構築する

子どもの適応・成長を実現する
ための「プロモーター」

保護者

子どもの適応・成長を実現する
ための「プロモーター」

本人

学校関係者や外部資源の後支え

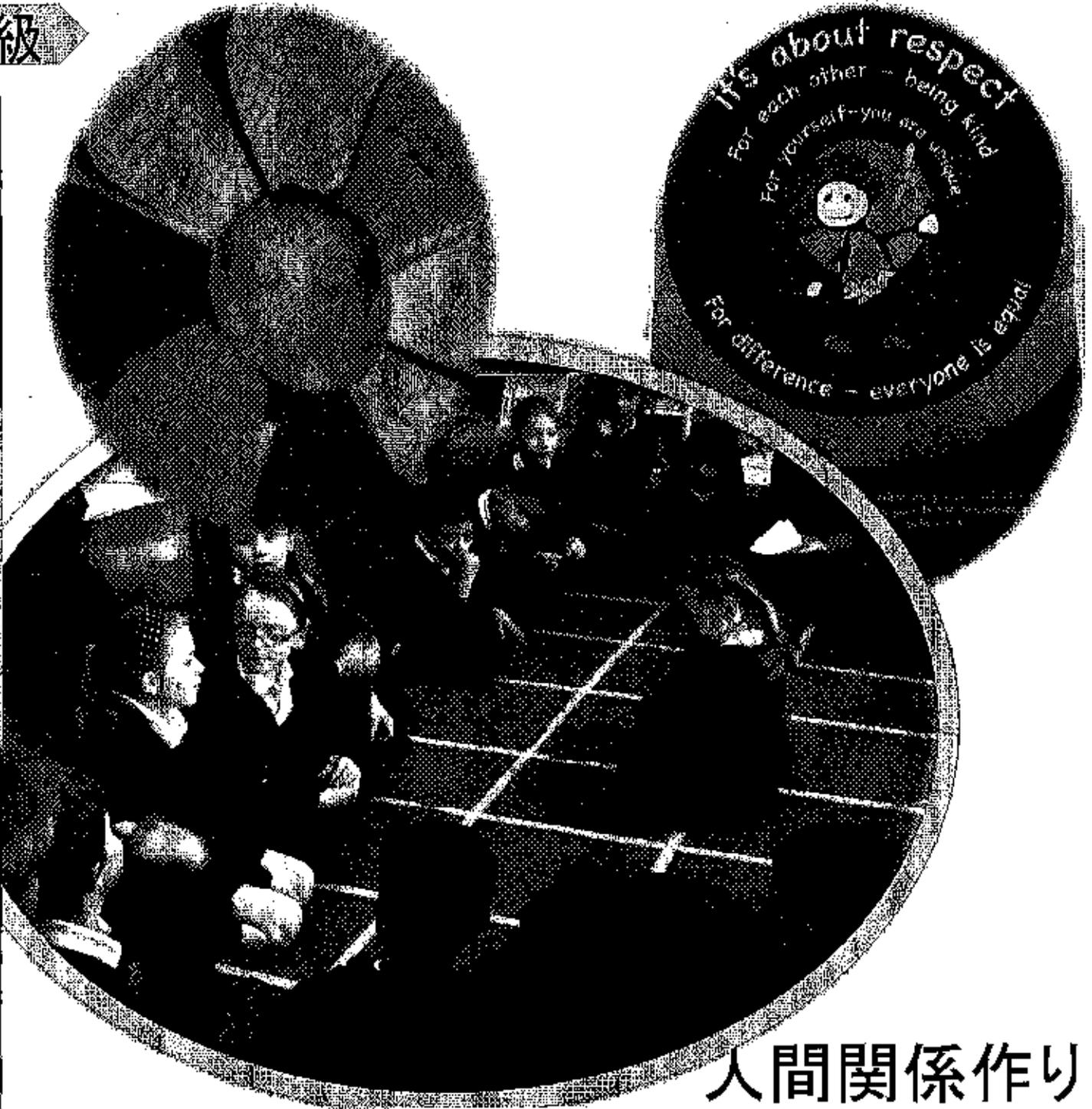
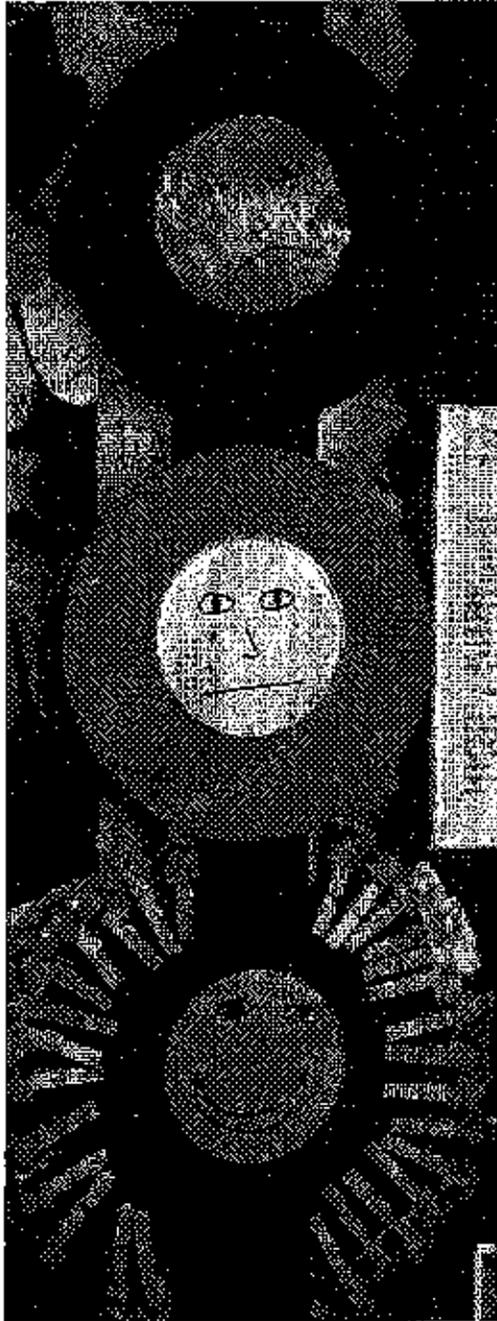
用語の確認

キャリア教育 (中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方についてH23)
一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

キャリア発達 (中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方についてH23)
社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程

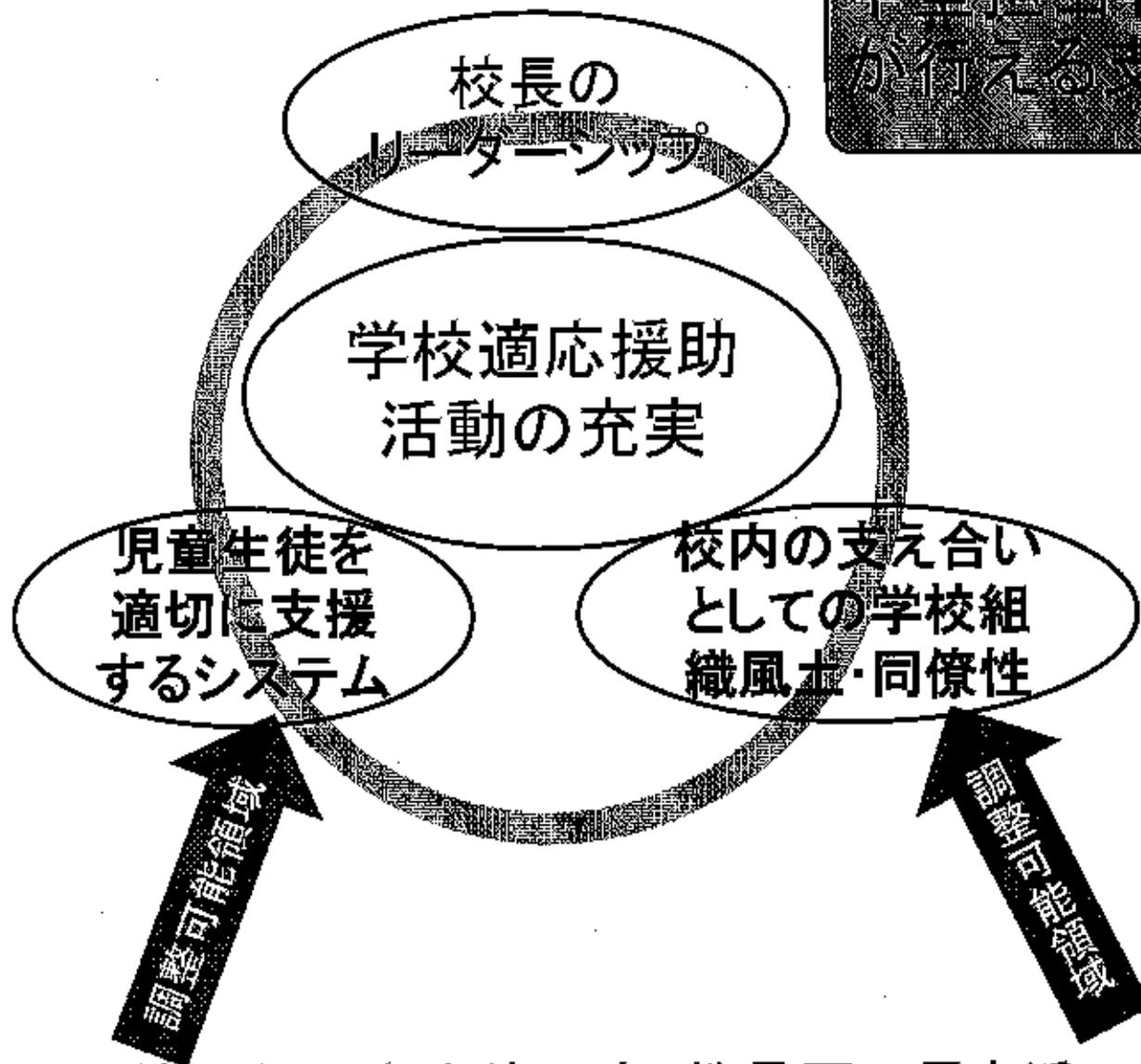
キャリア形成 (中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方についてH23)
社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくための自他の働きかけ

安心安全な学級



人間関係作り

中堅担当者(ヨドルリーダー)
が行える支援



具体的な児童生徒の姿・教員団に最も近い位置で日々接している中堅教員は、キャリア教育活動の充実のキーパーソン

管理職のリーダーシップに役立つ 担当者からの情報

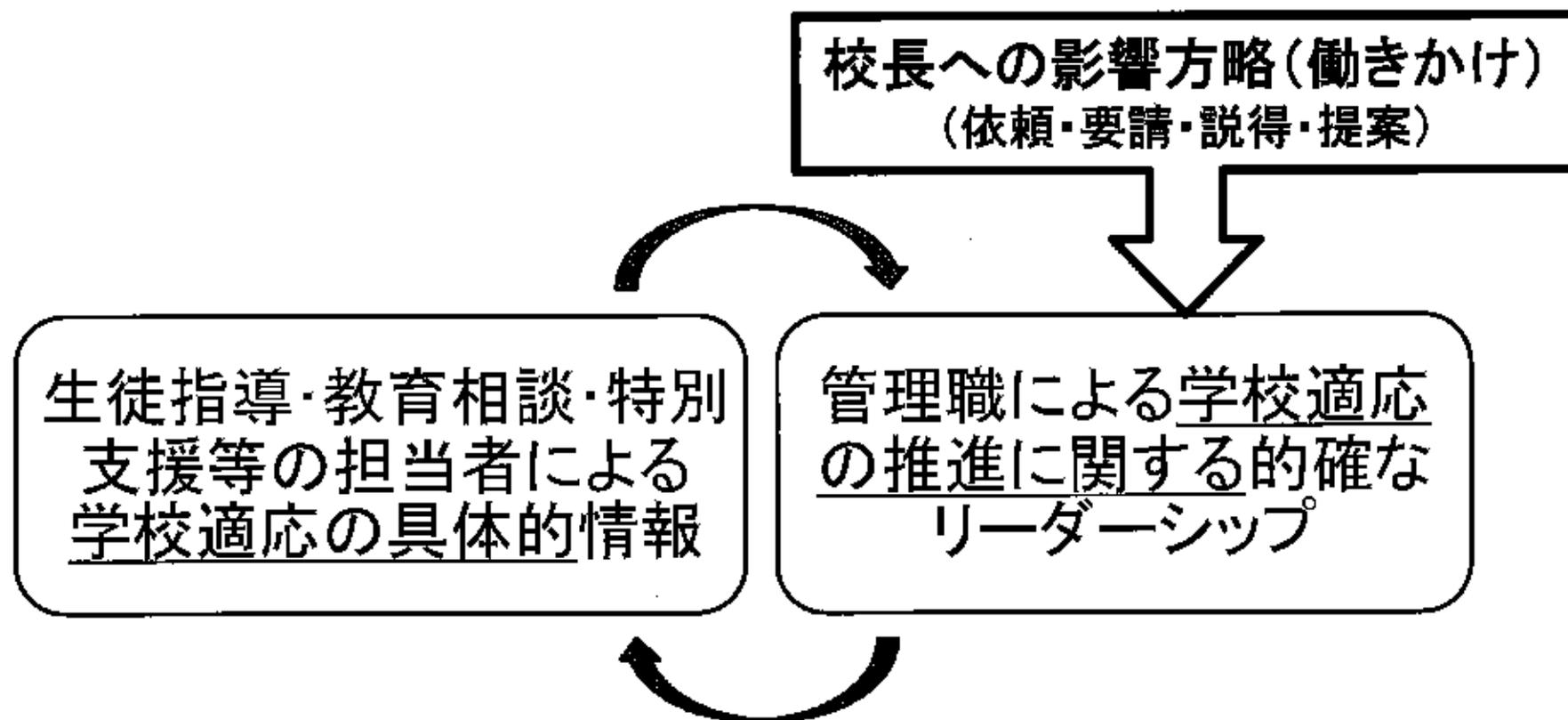
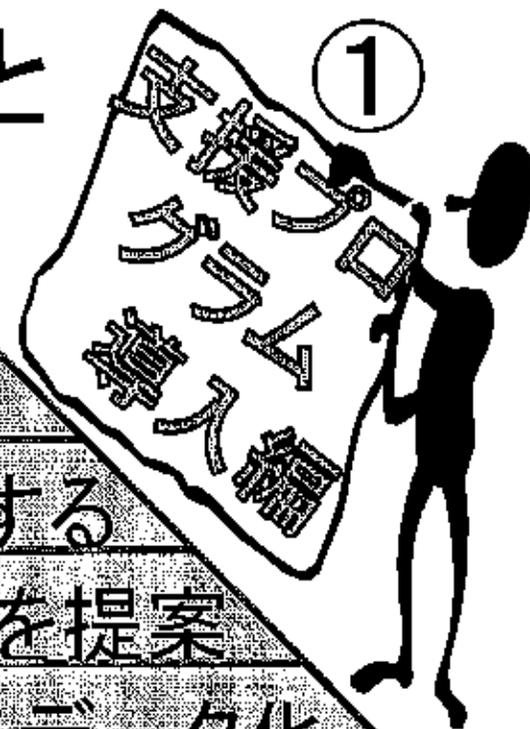


図3 担当者の提供する情報と管理職のリーダーシップの関係

ミドルリーダーの取り組みめること



⑥ 学期や年単位での成果の集約

⑤ 成果をデータ化し周囲と共有

④ 組織全体での取組を提案する

③ 学年など集団での展開を提案

② 周囲に紹介し成果をデータ化

① 自分の周辺で実施してみる

段階的導入

自分の位置からスタート

ミドルリーダーの取り組めること

②



順序性

自分のフィールドから実践

内外資源を活用した支援調整

統合性

全ての子ども
の学びの充実
とWell-Being

成果のエビデンス化

全体性

包括的
視点からの
バランス

人権的視
点で不利
の回避

実証性

公平性



ありがとうございました

hisakon@fukuoka-edu.ac.jp